

3月27日(水)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付場所	2階 ロビー	受付、賛助会員展示(展示は14:00まで)											
A会場	生物生産 学部C棟2F	C314	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	小集会2 若手の会「ヒツジ・ヤギ の放牧管理一牧民、植生から栄養、 肉質、ストレスまで」					
B会場	生物生産 学部C棟3F	C315	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	小集会1 「飼料作物育種にお ける種子増殖の現状と課題⑤」					
C会場	生物生産 学部C棟3F	C316	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	企画集会「周年親子放牧による 高収益繁殖経営を目指して③」					
D会場	生物生産 学部C棟3F	C308	シニア発表										
E会場	生物生産 学部C棟3F	C301	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表	口頭発表						
シンポジ ウム会場	生物生産 学部C棟2F	C206						企画シンポジウム3「IMRセン ターの活用による地域資源の活 用と地域活性化」					
ポスター 発表会場	大会会館1階 大集会室		ポスター展示	ポスター発表 表(偶数・ 高校生)	ポスター展示	ポスター 撤去							
講義室	生物生産 学部C棟2F	C201			和文誌・英 文誌合同編 集委員会	英文誌AE委 員会							
会員控室	生物生産 学部C棟3F	C309 C310	会員控室(食事可)										

広島大学東広島キャンパス（東広島市鏡山）へのアクセス

○JR 山陽本線を利用する場合

- ・西条駅南口から
バス：3 番乗り場「広島大学行」に乗車、「大学会館前」下車。約 20 分
タクシー：約 15 分、約 2000 円
- ・八本松駅から
バス：「広島大学行」に乗車、「大学会館前」下車、約 20 分
タクシー：約 15 分、約 2000 円

○JR 山陽新幹線を利用する場合

- ・東広島駅から（※ 広島大学行きバスは便数が限られています。）
- ・バス：「広島大学行」に乗車、「大学会館前」下車、約 15 分
- ・タクシー：約 15 分、約 2000 円

○広島空港を利用する場合

- ・西条エアポートリムジン（JR 西条駅行バス）：約 25 分
- ・白市ルート：JR 白市駅行バス→JR 白市駅、約 15 分；JR 白市→JR 西条駅、約 10 分

○車を利用する場合

- ・山陽自動車道を利用する場合
大阪方面：西条 I.C. から約 20～30 分
九州方面：志和 I.C. から約 20～30 分
- ・最寄り駐車場：生物生産学部東側「東第 6 駐車場」、大学会館南側「南第 2 駐車場」をご利用ください。無料

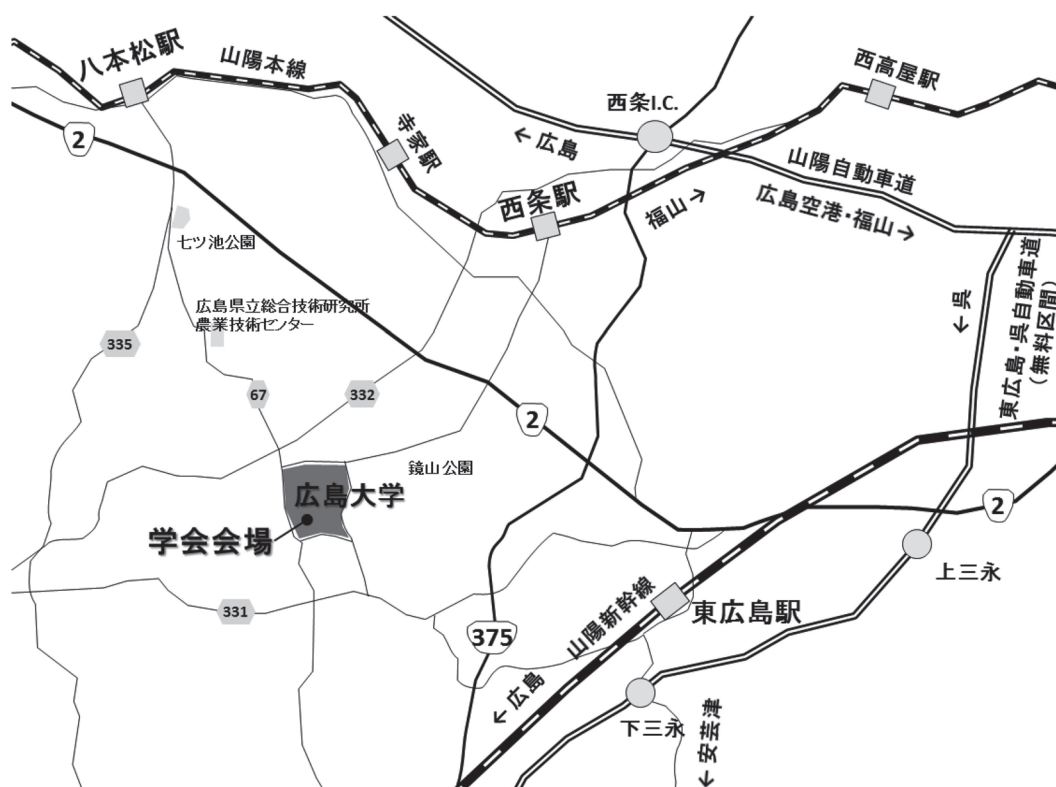
○高速バス（グリーンフェニックス）を利用する場合

- ・広島バスセンターから「広島大学行」に乗車、「大学会館前」下車。約 60 分

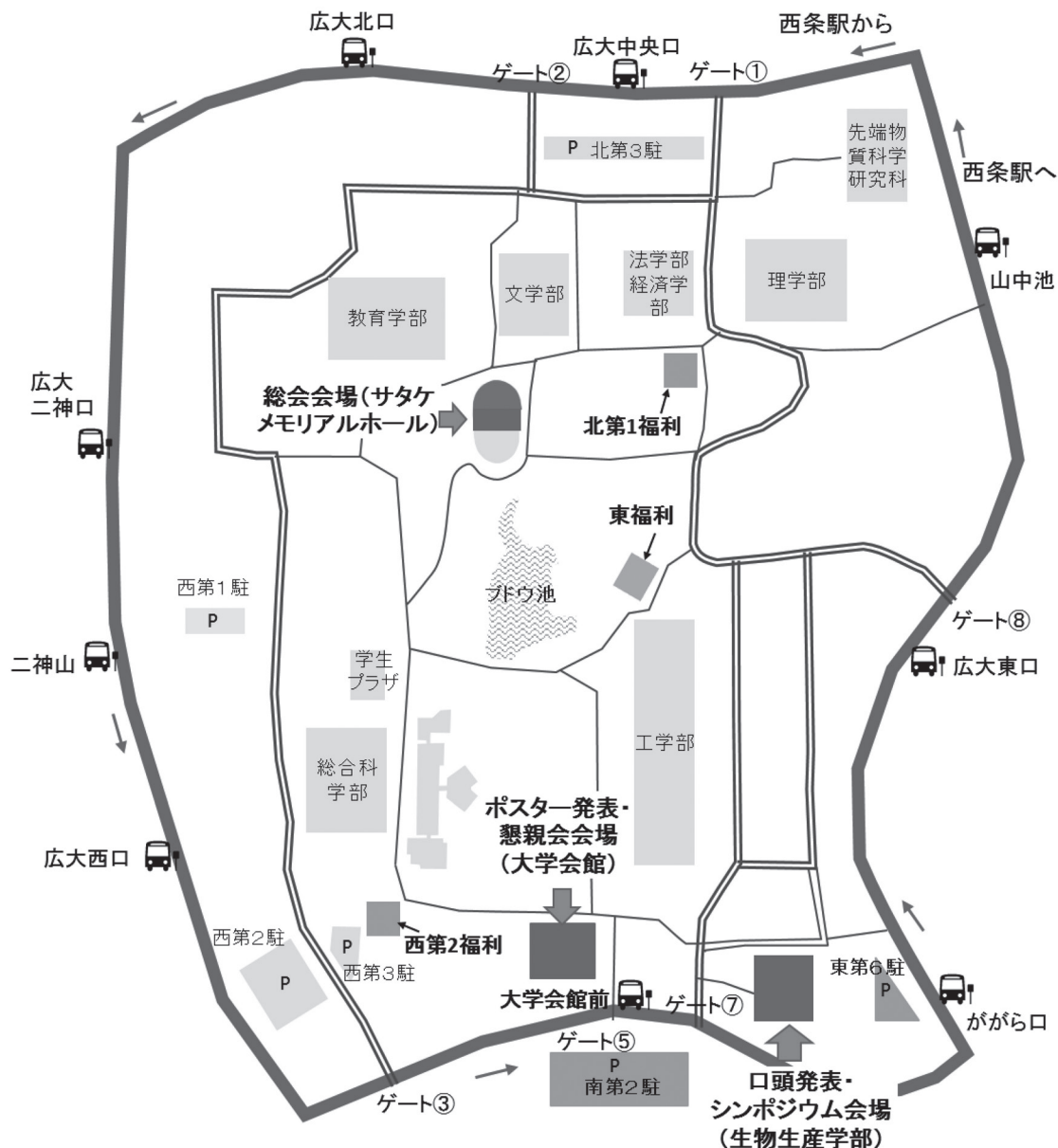
○詳細は広島大学東広島キャンパスへのアクセス（以下の URL）をご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/higashihiroshima>

○広域マップ



○広島大学 東広島キャンパス近辺



受付、口頭発表、シンポジウム、各種委員会：生物生産学部

ポスター会場：大学会館 1階大集会室

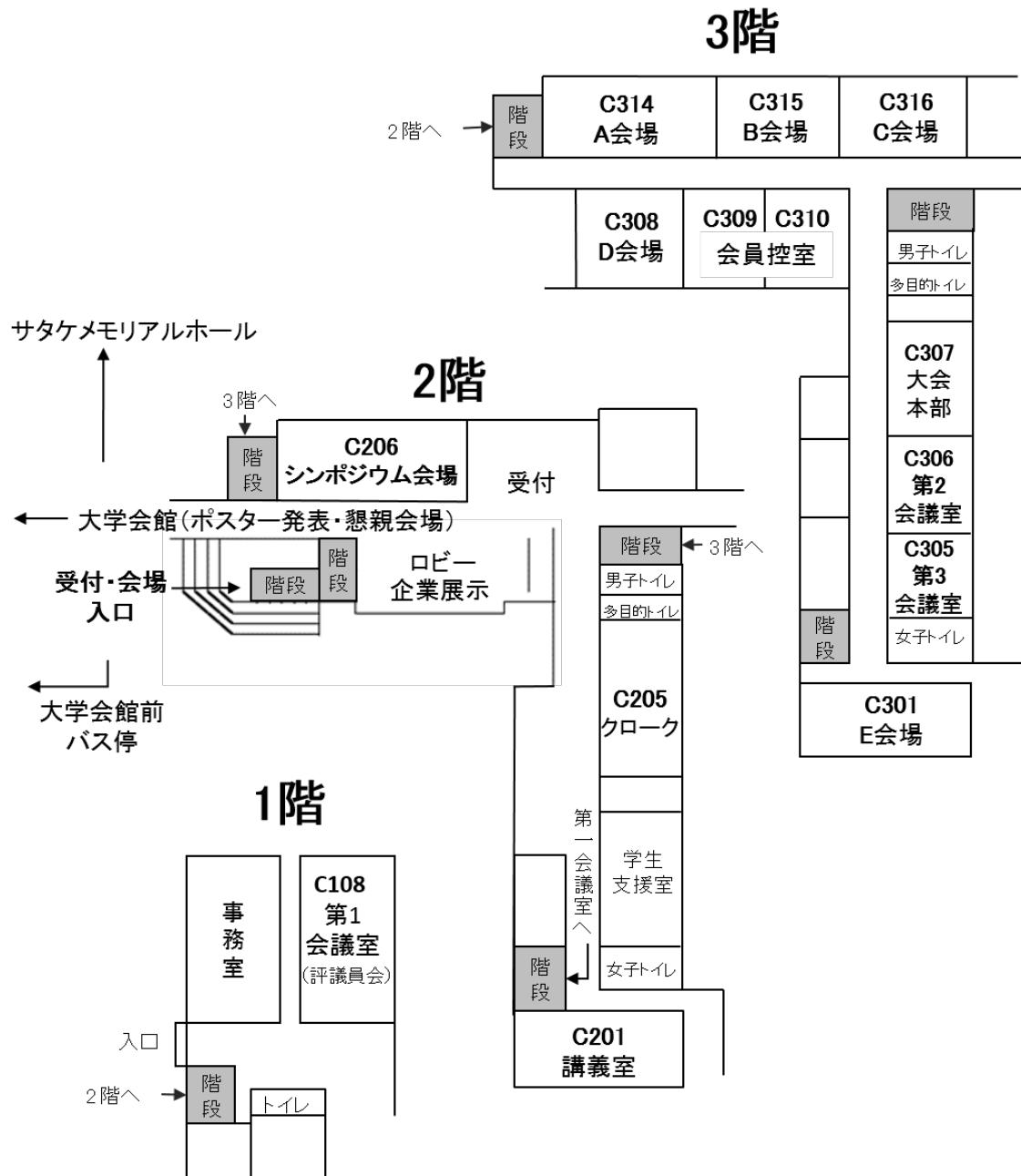
総会・学会賞等授賞式および授賞者講演会場：サタケメモリアルホール

懇親会会場：大学会館 2階食堂

※食堂は、西第2福利会館、北第1福利会館をご利用ください。また、サンドイッチ等は、西第2福利会館、北第1福利会館、大学会館1階、東福利会館の売店で販売しています（数に限りがあります）。

※懇親会終了後に、「大学会館前バス停」からJR山陽本線「西条駅」およびJR山陽新幹線「東広島駅」行きのバスを運行します。満員になりしだい出発しますので、ご利用の方は、早めに「大学会館前バス停」までお越しください。

受付・口頭発表・シンポジウム・各種委員会会場マップ



会場利用時のご注意

3月25日(月)

- ・ポスター会場は15:00に開場し18:00に施錠します。この間にポスター展示をして下さい。ポスターは、備え付けのマジックテープで貼り付けてください。
- ・シンポジウムと優秀若手発表賞以外の口頭発表会場(B～E会場)は施錠します。会員控室は利用できます。

3月26日(火)

- ・総会はサタケメモリアルホール、懇親会は大学会館2階食堂で行います。会員控室を含めた生物生産学会場およびポスター会場は15:00に施錠します。クロークにお預けになられた荷物は、15:00までに引き取りに来てください。

－企画シンポジウム、企画集会、小集会のご案内－

企画シンポジウム 1（市民公開シンポジウム：日本学術会議との共催）

「放牧・酪農による中山間地活性化の可能性を探る」

日時：3月25日（月）、15:00－18:00

場所：広島大学生物生産学部 C206 教室

企画責任者：帯広畜産大学 平田昌弘

<開催趣旨> 中山間地域は、総農家数の約4割を占めるなど、日本農業において依然として重要な位置を占めているにも拘らず、人口減少や少子高齢化による集落機能の低下がますます進んでいる。一方、ヨーロッパでは、中山間地域にこそ放牧酪農の拠点があり、草地利用による環境・景観保全、乳製品加工による収益性向上、ツーリズムなど他分野と連携した複合的経済活動、政府からの補助金支援により、酪農家が伝統的な形式を継承しながら力強く存続している。

この企画シンポジウムでは、ヨーロッパの移牧民の事例、乳文化の魅力、日本の放牧・酪農の事例、草地・林地輪換システム、持続可能な開発目標、地域資源のブランド化などを検討し、放牧・酪農による中山間地の活性化の可能性やその課題について考える。

<プログラム>

1. 牧畜・乳文化から日本中山間地の地活性化を考える
平田 昌弘（帯広畜産大学）
2. 放牧酪農の可能性－その魅力と罨
梶村 恭子（農研機構畜産研究部門）
3. 放牧畜産の可能性－島根県邑南町の事例から－
○渡辺 也恭・吉利 怜奈・林 志炫（農研機構西日本農業研究センター）
4. 放牧草地確保のための「草地・林地輪換システム」
大久保 忠旦（宇都宮共和大学 名誉教授）
5. 酪農のSDGs への貢献
木村 純子（法政大学）
6. 一次産業を念頭に置いた地域活性化の考え方
上田隆穂（学習院大学）

企画シンポジウム2（市民公開シンポジウム）

「草地・飼料畑における雑草対策：その現状と課題」

日時：3月26日（火）、9:00－11:00

場所：広島大学生物生産学部 C206 教室

企画責任者：東北大学大学院 小倉振一郎

＜開催趣旨＞ 草地・飼料生産現場において、雑草対策はきわめて重要な課題であるが、その制御は容易ではない。雑草の侵入は草地・飼料生産上の大きな問題であると同時に、草地畜産業が雑草の拡散と繁茂に寄与しているという側面もある。最近では、西日本を中心に、特定外来生物のナルトサワギクの拡散が大きな問題となっている。この様に全国的に雑草問題が深刻化しているにもかかわらず、国や地方自治体には専門家が少なく、対応窓口も無い自治体もあると聞く。また雑草に関する情報や防除・軽減対策技術の共有化があまり進んでいない。

こうした背景から、日本草地学会として、研究者、技術者、行政担当者および地域の普及員等が雑草問題とそれに対する取り組みの状況を話題提供することにより、雑草問題と最新情報の共有化を図り、今後の有効な対策の構築に向けた連携を強化することを目的として、シンポジウムを開催する。

＜プログラム＞

1. PAs を含有するナルトサワギクの畜産へのリスク

黒川俊二（農研機構中央農業研究センター）

2. UAV 空撮画像を利用した外来雑草のモニタリング

渡邊 修（信州大学農学部）

3. 放牧草地の雑草管理とは

北川美弥（農研機構畜産研究部門）

4. 徳島県における飼料畑の雑草問題

○福井 弘之¹・西岡 謙二¹・横石 和也²

（¹徳島県立農林水産総合技術支援センター，²徳島県農林政策課）

5. 討論

企画シンポジウム3（市民公開シンポジウム）

「TMR センターの活用による地域資源の活用と地域活性化」

日時：3月27日（水）、14:00－16:30

場所：広島大学生物生産学部 C206 教室

企画責任者：広島大学 黒川勇三

<開催趣旨> 広島県北西部にある全農ひろしま和牛 TMR センターは、地域の水田で生産されるイネ発酵粗飼料を原料とする自給粗飼料活用型の和牛専用 TMR センターとして平成 30 年 3 月に設立され、繁殖牛、子牛および肥育牛用の TMR の製造を行っている。この事業は、地域の水田農業と和牛生産による耕畜連携を推進し、地域全体の活性化につながることを期待されます。この事業を構成する主要な要素として、広島県内で育種された極短穂飼料イネ品種の「たちすずか」と、「たちすずか」の良質なサイレージ調製に適した乳酸菌製剤および微細断収穫機の開発、施策における各種の助成があります。TMR センターの活動概要、それを構成する諸要素を紹介し、地域資源の活用と地域活性化について討論を行います。

<プログラム>

1. 広島県におけるイネ WCS の普及利用状況
広島県農林水産局畜産課
2. WCS 用極短穂イネ品種の開発と普及状況
中込弘二（農研機構西日本農業研究センター）
3. WCS 用極短穂の微細断イネ収穫・調製技術と普及状況
○高橋仁康¹・岡田俊輔²
(¹農研機構九州沖縄農業研究センター, ²同西日本農業研究センター)
4. 極短穂イネ WCS を用いた和牛用 TMR の開発
河野幸雄（広島県立総合技術研究所畜産技術センター）
5. 和牛 TMR センターの活動概要
森本隆義（全国農業協同組合連合会広島県本部 TMR センター）

企画集会

「周年親子放牧による高収益繁殖経営を目指して」

③放牧家畜の行動特性と安全な家畜管理作業

日時：3月27日（水）、14：00－16：30

場所：広島大学生物生産学部 C316教室（C会場）

責任者：山本嘉人（農研機構 畜産研究部門）

＜開催趣旨＞ 高齢化した繁殖農家の離農に伴う肉用子牛の出生頭数減少により子牛価格が高騰しており、肉用子牛の安定供給は喫緊の課題である。そこで、大幅な軽労化が見込める放牧メリットを最大限に活用した周年親子放牧技術により、畜舎を必要とせず初期投資を抑えることで新規参入も視野に入れた、省力低コストで収益力を高めた繁殖経営を確立させる必要があると考える。本企画集会では肉用子牛生産現場の現状を把握するとともに、「周年親子放牧」普及に向けて解決すべき課題の明確化、適用可能技術の検討等を行う。

本集会は、今後草地学会大会時に開催される企画集会としてシリーズ化している。大会開催ごとに、肉用子牛生産現場の現状と課題を報告して頂くとともに、繁殖経営現場で活用できる技術を紹介していきながら、高収益繁殖経営に向けた論議につなげていきたい。新たな担い手が参入するには、熟練を要する家畜管理作業は極めてハードルが高い。このため、放牧家畜の行動特性を理解するとともに、安全な家畜管理作業につながる効率的な馴致技術の構築不可欠と考えられる。今回は、放牧家畜の行動特性と安全な家畜管理作業等について報告頂く。報告の一部には生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち人工知能未来農業創造プロジェクト）」における周年親子放牧コンソーシアムでの取り組み内容の紹介を含む。なお、本企画集会で講演された内容の一部は、日本草地学会誌の実用記事に掲載される予定である。

＜プログラム＞

1. 人と牛との良好な関係の構築

農研機構畜産研究部門 小迫孝実

2. 管理者に必要なストックマンシップ

東北大学大学院農学研究科 深澤 充

3. 技術紹介：

① 放牧子牛を大きく育てる木材クラフトパルプ飼料

農研機構畜産研究部門 木戸恭子

② 家畜飲水の簡易な冬季凍結抑制技術

農研機構畜産研究部門 中尾誠司

小集会 1

「飼料作物育種における種子増殖の現状と課題 ⑤飼料用トウモロコシ における採種状況の現状および課題」

日時：3月27日（水）14:00-16:30

場所：広島大学生物生産学部 C315 教室（B会場）

企画者：佐藤 尚（農研機構 北海道農業研究センター）、
川口 優（家畜改良センター）、
上山泰史（農研機構 畜産研究部門）、
清 多佳子（農研機構 畜産研究部門）

<開催趣旨> 我が国で育成された飼料作物の種子の多くは、他の作物とは異なり海外で増殖されている。飼料作物の種子を農家に安価に安定供給するためには、海外増殖を見据えた採種性を考慮した品種開発が必要である。そのため飼料作物種子増殖の現状と課題を共有し、育種を行う上で対応すべき課題を再認識し関連の研究の推進につなげることを目的に本小集会を開催してきた。

第5回目となる本小集会は、飼料用トウモロコシに焦点を当てて、育種上での牧草類とは異なるトウモロコシ特有の採種性の問題（親系統自体の採種性および採種栽培時の両親系統の開花の同調）や育成地、国内外の採種地における問題を取り上げ、これらについての認識を深めこれからの育種の課題とすることを目的として開催する。

<プログラム>

1. トウモロコシにおける採種性とその問題点（仮）

佐藤 尚（農研機構北海道農業研究センター）

2. 国内における飼料用トウモロコシ原種子の採種状況（仮）

塩沢 道明（家畜改良センター）

3. 公的品種の海外増殖の現状（仮）

伊澤 健（一般社団法人 日本草地畜産種子協会）

司会 農研機構 畜産研究部門 上山 泰史

4. 意見交換

小集会2（日本草地学会若手の会）

「ヒツジ・ヤギの放牧管理

ー牧柵、植生から栄養、肉質、ストレスまでー」

日時：3月27日（水）14:00-16:30

場所：広島大学生物生産学部 C314 教室（A会場）

企画者：吉原 佑（三重大学）

<開催趣旨> 若手の会では、昨年（熊本）と一昨年（弘前）の小集会において、若手研究者の就職サポートを目的とした、先輩からの就職・仕事・研究の苦労話を紹介してきました。今回は内容を改めて、これまで実施されていなかった、若手の会のメンバーによる共通の研究話題について紹介したいと思います。

小型反芻獣（ヒツジ・ヤギ）は、日本の家畜の中で牛・豚や鶏と比べて産業、研究においてマイナーな立場となっていますが、近年では放牧による雑草管理等で注目されています。また、平均年齢が65を越える現在の日本の農家においては、体の大きな牛を取り扱うのは高齢者にとって大きな負担であるものと想像されますが、小型反芻獣は取り扱いやすいことから、今後は牛の代替として需要が高まるのではないかと考えています。偶然にも、若手の会メンバーの中に小型反芻獣に関心を持って研究に取り組んでいる人が揃っていたため、今回の小集会では「ヒツジ・ヤギの放牧管理 ー植生、牧柵から栄養、ストレス、肉質までー」を実施します。

<講演予定者>

1. 柿原 秀俊（東北大学）
「ヤギ放牧における電気牧柵の利用と脱柵」
2. 土井 和也（岐阜大学）
「ヤギの放牧による荒廃農地の管理」
3. 浅野 桂吾（石川県立大学）
「耕作放棄地放牧によるラム肉生産の取組み」
4. 吉原 佑（三重大学）
「ヒツジにストレスを与えると牧草の消化率が低下する」

学会大会における求職中のポスドク・学生の就職支援

日本草地学会 若手の会

若手の会では、『若手会員の研究職への就職サポート』を実施しています。本活動では、求職側（ポスドクや博士・修士学生等）と求人側（研究所・大学・企業等）の交流の場である学会大会において、就職側が求職中であることを、大会期間中のリボン装着や講演要旨、発表資料内への明示によってアピールすることで、若手会員の就職に役立ててもらえるものと期待しています。またオプションとして、求職者本人から多くの大会参加者に直接アピールできる「アピールタイム」を、総会の前に1人あたり1分間ご用意しています。活動内容の詳細は下記をご覧ください。

本活動への応募は、大会エントリーページの下方（若手賞申し込みの下）、『「研究職求職中」を要旨に明示する』の項目からお申し込みいただけます。また同時に選択いただく「現在のポスト、学年」、「アピールタイムに申し込む」の情報をもとに、リボンやプログラムに記載するシンボルを割り当てます。

若手会員の就職サポート内容

1. 求職中であることを示すリボン（もしくはバッジ）を装着

- 学会期間中に求職中であることを示すリボンを装着することで、求人側の皆様に明示する。
- 求職の状況（PD や D3 などすぐに職が必要な人、D1, D2 やマスターなどで急ぎはしないが将来的に希望する人）などに応じで、リボンの色を使い分ける（表1）。





2. プログラムに求職中であることを示すシンボルを追加

- プログラム中の発表課題番号の右（もしくは左）の分かりやすい箇所に、「求職中の学生・ポスドク」であることが分かるシンボルを示す（表1）。

3. 発表資料（プレゼン・ポスター）に求職中ロゴを掲示

- プレゼン発表資料（PDF）やポスターに、求職中ロゴを入れる（表1）。

表1 求職中であることを明示する方法

明示方法	求職の状況			
	ポスドク	博士課程3年	博士課程1-2年	修士課程
1. リボン	赤	ピンク	黄	青
2. プログラム	★	☆	◎	●
3. 発表資料用 ロゴ				

4. アピールタイムの設置

- 総会前に求職中のポスドク・学生が、発表課題番号と研究概要、個性をアピールする時間を設置する。各1分の持ち時間とする。求人側の皆様に、興味を持った発表課題の話を聞きに会場へ足を運んでいただくことを期待する。

高校生研究発表会のご案内

草地学会教育委員会

本大会において高校生の研究発表会（ポスター発表）を開催します。日頃の校内学習やプロジェクト学習などの成果を学会という場で発表し、大学や研究所の研究者との議論や交流を通して、草地および草原とそれに関わる諸学問や活動に対する理解や関心を深めてもらうことが本企画の目的です。

下記に日時と発表演題および発表者名・所属を記載しました。一般演題と同様に、コアタイムに高校生がポスターの前でそれぞれ発表・説明します。皆様の積極的なご参加と今後の活動の参考や励みになるようなご意見やご助言をお待ちしております。

日時：3月27日（水）11：00～12：00

場所：大学会館1階大集会室

ポスター番号：P76

P76：

広島県立油木高等学校の粗飼料利用

○岡本南美・田部三稀・種坂岳士・福島大悟・山本なみ・宮本正展
（広島県立油木高等学校）

口頭発表プログラム 3月25日			
A会場 (生物生産学部C棟3F C314)			
時間	座長	優秀若手発表賞発表	
13:00	井戸田幸子	Y01	ダイズホールクroppサイレージは発酵TMR中の輸入アルファルファ乾草を代替できるか？ ○神園巴美・河本英憲・嶺野英子・内野 宙・出口 新(農研東北)
13:15		Y02	非アロフェン質黒ボク土の採草地における交換酸度とオーチャードグラスの優占度の関係 ○柿原秀俊・小倉振一郎(東北大院農)
13:30		Y03	低フィチンダイズにおける低リン耐性系統の選抜とその特性 ○野口義晃・鈴木康彦・秦 東・上田晃弘・実岡寛文(広島大院生物圏)
13:45	休憩		
14:00	川出哲生	Y04	正規化分光反射指数NDSIを利用した刈取牧草の水分率の簡易評価法 ○林 志炫・渡辺也恭・吉利怜奈(農研西)
14:15		Y05	深層学習を用いた広葉雑草認識と施肥提案マップ作成 ○築地原里樹1・秋田真悟1・池 玲一郎1・竹村裕1・進藤和政2・井出保行2・手島茂樹2(1東京理科大学理工学部機械工学科・2農研機構畜産研究部門)
14:30		Y06	Effect of pasteurization and spawn rate on improvement of the nutritive value of bagasse incubated with <i>Pleurotus ostreatus</i> at ambient temperature ○Stanford, Muyila1・花田正明1・梅本想大1・佐藤 忠1・Njolomba, Joshua1・福間直希1・西田武弘1・山川政明2(1帯広畜産大学・2道総研畜産試験場)

口頭発表プログラム 3月26日

A会場 (生物生産学部C棟3F C314)				B会場 (生物生産学部C棟3F C315)			
				時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	
時間	座長	2. 造成・管理・栽培		11:00	渡辺也恭	301	放牧牛用自動体重計測システムの開発 ○喜田環樹・中尾誠司・平野 清・手島茂樹 (農研畜産)
11:15	深川 聡	201	根釧地域におけるガレガ安定栽培のための播種 晩限の設定 ○中村直樹・松本武彦・牧野 司・角谷芳樹(道 総研酪農試)	11:15		302	周年親子放牧条件下での子牛増体の現地実証評 価 ○土井和也・平野 清・木戸恭子・中尾誠司・ 進藤和政・下田勝久・井出保行(農研機構 畜 産研究部門)
11:30		202	混播率と刈取回数異なるオーチャードグラ ス、ペレニアルライグラス混播草地における草 種構成の経年変化 ○有田敬俊1・二門 世1・岡元英樹2・安達美江 子3(1道総研酪農天北・2道総研上川農試・3ホク レン)	11:30		303	ウシは野外で移動しながら近距離の緑草と枯死 草を視覚によって識別できるか？ ○平田昌彦・有本千恵・服部七海・安在弘樹 (宮崎大農)
11:45		203	南九州の中山間地域におけるネビアグラスの生 育、収量および飼料品質 ○石井康之1・甲斐伸一郎1・巻岐佑佑2・新美光 弘1・井戸田幸子1(1宮崎大農・2宮崎大院農、現 宮崎畜試)	11:45		304	放牧条件下の行動型を推定するための3軸加速 度センサを用いた活動量指数の検討 ○進藤和政・平野 清・井出保行(農研畜産)

C会場 (生物生産学部C棟3F C316)				D会場 (生物生産学部C棟3F C308)			
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用		時間	座長	7. 土壌・肥料	
11:15	河本英憲	401	中・高水分域のアルファルファロールベールサ イレージ調製における乳酸菌・繊維分解酵素製 剤の添加効果 ○浅井貴之1・北原茉依1・本間 満2・川越大樹 2・篠田英史2(1長野畜試・2雪印種苗)	11:15	石垣元氣	701	開花期以降の乾燥ストレスがダイズの生育と生 産性に及ぼす影響 ○鈴木康彦・実岡寛文(広島大院生物圏)
11:30		402	Chemical composition and <i>in vitro</i> gas production of fresh and ensiled fruit byproducts ○Ainissy Fitri・杉野利久・小櫃剛人(広大院 生物圏)	11:30		702	スラリー施用が飼料用トウモロコシの収量と土 壌中硝酸態窒素濃度に及ぼす影響 ○林田雄大1・大川夏貴2・北川まき1・鶴田 勉1(1熊本農研七番研・2県北広域本部阿蘇地域 振興局)
11:45		403	早刈り・短間隔刈りで収穫したオーチャードグラ ス・ペレニアルライグラス混播牧草サイレー ジの飼料特性(第2報) ○矢島 昂・須藤賢司・宮地 慎・多田慎吾・ 青木康浩(農研北海道)	11:45		703	子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦 栽培における追肥窒素が増収効果とその栽植密度 反応に及ぼす影響 ○義平大樹・宋 糧(酪農学園大学)

E会場 (生物生産学部C棟3F C301)			
時間	座長	6. 育種	
11:15	足利和紀	601	ソルガム乾汁性遺伝子Dの単離 ○米丸淳一1・春日重光3・藤本 優4・川東広幸 1・大西孝幸4・高梨秀樹4・米田淳一4・徳永 毅6・呉 健忠1・松本 隆7・堤 伸浩4(1生物 研・2農研次世代・3信州大農・4東京大・5宇都 宮大・6(株)アースノート・7東京農業大)
11:30		602	穂の先端除去によるエンドファイト感染イタリ アンライグラスの高感染率集団の作成および栽 培条件による後代種子感染の差異 ○清 多佳子1・吉田信代2・菅原幸哉2・荒川 明3・内山和宏1・上山泰史1(1農研畜産・2農研 中央・3農研九沖)
11:45		603	耐病性・低温短日伸長性に優れるポルトガルエ コタイプを利用したオーチャードグラス中生系 統「那系29号」の育成とその特性 ○内山和宏・清 多佳子・上山泰史(農研畜産)

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、
二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。
時間厳守。また、プロジェクトが不調の場合には、講
演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月27日

A会場 (生物生産学部C棟3F C314)			B会場 (生物生産学部C棟3F C315)		
時間	座長	2. 造成・管理・栽培	時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動
9:00	川地太兵	204 飼料用水稲における出穂後の非構造的炭水化物と窒素の挙動 ○小野田和哲1・近藤 誠2・関谷信人2(1三重畜研・2三重大生物)	9:00	手島茂樹	305 岡山県美作市で捕獲された野生シカの血液性状と腸内細菌叢 小田沙也可・鶴田剛司・○西野直樹(岡山大学大学院環境生命科学研究科)
9:15		205 トウモロコシ雌穂の虫害程度が子実のフモニン濃度に及ぼす影響 ○内野 宙1・上垣隆一2・魚住 順1・出口新1・藤竿和彦1・河本英憲1・嶋野英子1・神園巴美1(1農研東北・2農研動物)	9:15		306 シバとレンゲツツジ群落における在来馬の採食植物 ○池田堅太郎(農研東北)
9:30		206 栃木県北部における飼料用トウモロコシの黄熟期以降の雌穂乾物率の推移および予測 ○赤松佑紀・森田聡一郎・菅野 勉(農研畜産)	9:30		休憩
9:45	休憩		9:45		
10:00	東山雅一	207 RTK-UAVおよびGNSS/コード付きGCP導入による草地管理の省力化 ○小花和宏之・坂上清一・八木隆徳(農研北海道)	10:00	座長	6. 育種
10:15		208 優良牧草品種を利用した不耕起播種による省力的な草地更新の効果 ○塩沢道明・加藤信夫・加藤知寿子・神津誠一・樋口守(家改セ長野)	10:15	高井智之	604 準高冷地において選抜・育成したライムギ系統の越冬性評価Ⅱ ○春日重光1・小林達生1・小山内光輔2・関根平2・野宮 桂2(1信州大農・2雪印種苗)
10:30		209 寒地型牧草の成長段階と分けつ構成が1番草の栄養価に及ぼす影響 ○和田有平1・柳杭田駿男2・飛田光晴2・青野優磨2・吉村征一郎2・斎藤未来2・天川 力2・三枝俊哉1(1酪農大院酪・2酪農大)	10:30		605 未出穂型ソルガムの収穫期が生育・収量に及ぼす影響 ○春日重光1・齋藤菜月1・川東広幸2・米丸淳一2・小山内光輔3(1信州大農・2農研機構・次世代作物センター・3雪印種苗)
			606 ソルガムの紫斑点病・高消化性識別DNAマーカーの育種利用 ○川東広幸1・米丸淳一1・小山内光輔2・春日重光3(1農研機構 次世代作物開発研究センター・2雪印種苗・3信州大学 農学部)		
13:00	菅野 勉	210 ソルガム新品種ターザンの播種密度およびトウモロコシ混播が生育とサイレージ発酵品質に及ぼす影響 ○井戸田幸子1・今村 駿1・岡本成美1・飛佐学1・石井康之1・西村慶子2・有馬典男2(1宮大農・2宮崎畜試)	13:00	藤森雅博	607 パヒアグラス遺伝子組換え体におけるCAD遺伝子の発現抑制がPAL、COMT遺伝子の発現とリグニン含量に及ぼす影響 ○権藤崇裕1・山田智仁2・湯浅玲奈2・明石良2(1宮大フロンティア・2宮大農)
13:15		211 気象リスクに対応したスーダン型ソルガム「涼風」の収穫時期 ○清沢敦志・北原茉依(長野畜試)	13:15		608 イタリアンライグラスの越冬と耐病性に関する選抜 ○上山泰史1・清 多佳子1・荒川 明2・内山和宏1(1農研機構畜産研究部門・2農研機構九沖農研センター)
13:30		212 スーダン型ソルガム「涼風」の1番草刈取り時期と収量、飼料品質と泌乳牛の嗜好性 ○小橋有里・小柳 渉・長谷川昌伸(新潟農総研畜研セ)	13:30		609 高採種性イタリアンライグラスの育成に資する関連形質の調査 3. 熊本における調査結果 ○川口 優1・松井理栄子1・八重樫朋祥2・櫻井光一1・川原隆二2(1家改セ長野・2家改セ熊本)

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。時間厳守。また、プロジェクトが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月27日

C会場 (生物生産学部C棟3F C316)			D会場 (生物生産学部C棟3F C308)		
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用	時間	座長	8. シニア発表
9:00	高野 浩	404 試作した電磁波伝送特性測定装置のラップサイロへの押し当て方法が、伝送特性および含水率非破壊推定精度におよぼす影響 ○松尾守展1・Dang Quoc Thuyet1・小林有一1・昆 盛太郎2(1農研革新・2産総研)	9:00	後藤 正和	S01 耕作放棄地放牧によるヒツジ生産とその利用に向けた研究 ○石田元彦・浅野桂吾(石川県大)
9:15		405 静電容量式水分測定器と定荷重装置を用いた牧草含水率推定手法の開発(第二報) ○川出哲生(農研中央)	9:15		S02 ヤギを取り巻く諸問題~家畜とペットのはざままで~ ○今井明夫(今井農業技術士事務所)
9:30		406 汎用型飼料収穫機用試作スナッパヘッドのアイコン収穫性能 ○長田 享1・志藤博克1・岡嶋 弘2・小林優史2・岩本勝紀2(1農研革新・2タカキタ)	9:30		S03 阿蘇での羊牧場の設立と取り組み ○飛岡久弥(阿蘇羊牧場)
9:45	休憩		9:45	休憩	
10:00	浅井 貴之	407 Growth characteristics, yield, nutritive and anti-nutritive values in seven varieties of Napiergrass (<i>Pennisetum purpureum</i>) ○Mohammad Mijanur Rahman1・Norshazwani Binti Muhamad Shariman1・Nurul Eizaty Syahfieza Binti Md Shapeil1・Takahiro Gondo2・Ryo Akashi2(1Faculty of Agro Based Industry, Universiti Malaysia Kelantan・2Faculty of Agriculture, University of Miyazaki)	10:00	市戸 万丈	S04 草類の消化性制限要因に関する画像検証(1) アンモニア処理からのアプローチ ○後藤正和(元 三重大学)
10:15		408 極短穂型飼料用水稲の茎部繊維消化性とその要因解析 ○近藤 誠1・Budi Wardiman1・小野田和哲2・伊藤はつき1・早川ひかり1・関谷信人1(1三重大生物・2三重畜研)	10:15		S05 草類の消化性制限要因に関する画像検証(2) 担子菌培養からのアプローチ ○後藤正和(元 三重大学)
		409 飼料用水稲における出穂後の糖とデンプン濃度に対する栽培技術の効果 ○関谷信人・太田怜奈・近藤 誠(三重大学大学院生物資源学研究所)	10:30		S06 中国地域(東広島)におけるカメリナの栽培の試み ○河野憲治(元 広島大院生物圏)
			10:45	休憩	
			11:00	今井 明夫	S07 食品輸出10兆円を目指して ○市戸万丈(元 畜草研・草地試)
			11:30		S08 シニア発表の経緯と将来 ○雑質 優(元 岩手大学)
13:00	細田 謙次	410 アルファルファ乾草と代替した飼料用大豆ロールペールサイレージの給与が泌乳牛の乳生産および消化性に及ぼす影響 ○中村真紀・稲葉あすか・布野秀忠(鳥根畜技セ)	<p>口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分(一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒)です。時間厳守。また、プロジェクトが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。</p>		
13:15		411 褐毛和種への発酵TMR給与による影響 ○荒木絵梨香1・元嶋 健2 (1熊本農研七草地畜産・2天草広域本部)			
13:30		412 黒毛和種肥育雌牛への発酵TMR全期間給与が増体及び枝肉成績に及ぼす影響 ○北川まき1・林田雄大1・眞鍋由希1・塚 久弥2・鶴田 勉1・大川夏貴3(1熊本農研七畜研・2県北広域本部・3県北広域本部阿蘇地域振興局)			

口頭発表プログラム 3月27日			
E会場 (生物生産学部C棟3F C301)			
時間	座長	1. 草地生態・システム分析・ 緑地環境	
9:00	佐藤正道	101	ドローン空撮画像を用いた放牧地におけるチカラシバの検出 弓場憲生1・〇川村健介2・安田泰輔3・吉利怜奈4・林 志炫4・黒川勇三5・小櫃剛人5(1広島大院国・2国際農研・3富士山研・4農研西日本・5広島大院生物圏)
9:15		102	空撮画像からの草地圃場縁の自動抽出の試み 〇坂上清一1・八木隆徳1・小花和宏之1・森公象2・伴苗行弘2(1農研北海道・2家畜改良センター十勝)
9:30		103	ドローン空撮画像を用いた放牧地の草種構成マップの作成および放牧牛のGPS位置情報との統合による草種選択性の評価への応用 〇安在弘樹・津田麻帆・川並泉美・平田昌彦(宮崎大農)
9:45	休憩		
10:00	大竹秀男	104	北海道における低投入不耕起型草地管理の実態と可能性および技術的課題 〇佐々木草晴(北海道大学)
10:15		105	放牧牛の排糞が草地植生の種数と種構成に与える影響の評価：新しい尺度を用いて 〇塩見正衛1・福田栄紀2・築城幹典3・佐々木恵美1・安田泰輔4(1茨城大・2東北農業センター・3岩手大・農・4山梨県富士山科学研)
10:30		106	草地植生の新しい調査と解析の方法；一連の研究の完成 〇塩見正衛1・陳 俊2・安田泰輔3(1茨城大・2西北農林科技大草業・3山梨県富士山科学研)
13:00	金子真	107	光の反射を用いた緑色現存量の測定方法間の比較 〇西脇亜也・益満美里・宋 維茹(宮崎大学農学部)
13:15		108	非アロフェン質黒ボク土の放牧草地における交換酸度と優占草種の関係 〇柿原秀俊・小倉振一郎(東北大院農)
<p>口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。 時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。</p>			

ポスター発表 (大学会館1階 大集会室)

奇数番号コアタイム： 3月26日 13:00~14:00

偶数番号コアタイム： 3月27日 11:00~12:00

1. 草地生態・システム分析・緑地環境

P01	UAVによる植生モニタリング：半自然草地内の樹種分類 ○安田泰輔(山梨県富士山科学研究所)
P02	植生指数の遠隔推定のための太陽光反射スペクトル補正方法の検討 ○庄 中原1・中村溪士郎1・宮路祥太郎1・石垣元気2・荒井昌和1(1宮崎大工・2宮崎大農)
P03	UAV空撮によるDSM画像を用いた採草地におけるクサヨシ繁茂場所の判別 ○吉利怜奈1・渡辺也恭1・林 志炫1・坂上清一2・八木隆徳2・森 公象3(1農研西日本・2農研北海道・3家改セ十勝)
P04	ローズグラスにおける反射スペクトル情報を用いた粗タンパク質含有率推定 ○中村溪士郎1・宮路祥太郎1・庄 中原1・石垣元気2・荒井昌和1(1宮崎大工・2宮崎大農)
P05	放牧草地の永続性に及ぼす草種と施肥量の影響 ○東山雅一(農研機構東北農業研究センター)
P06	安家森半自然草地における放牧が植生動態に及ぼす影響 ○東山雅一(農研機構東北農業研究センター)
P07	牧草の栄養収量および種子逸出防止の両面から見た出穂期刈りの効果 ○江川知花1・小路 敦2・芝池博幸1(1農研環境変動・2農研北海道)
P08	津波被災地(仙台市)における土壌動物相の推移 ○大竹秀男(宮城大・食産業学群)
P09	ペレニアルライグラスに含まれるクロロゲン酸のアレロパシー効果と近赤外分光法を用いた検量線の作成 ○江口研太郎1・清 多佳子1・木村俊之1・川村健介2(1農研機構・2国際農研)
P10	木本類のポリフェノール、カロテンおよびキサントフィル含量 ○下田勝久1・田村亜香音2・小倉振一郎3(1農研機構畜産研究部門・2東北大学農学部・3東北大学大学院農学研究科)
P78	葉緑体DNAの塩基配列に基づくリードカナリーグラスの栽培品種と在来系統の識別：海外の試料を含めた検討 ○芝池博幸1・江川知花1・上山泰史2(1農研環境・2農研畜産)

2. 造成・管理・栽培

P11	強害雑草の識別における機械学習の有用性の検討 ○田中勝千・大出亜矢子・皆川秀夫(北里大学獣医学部)
P12	機械学習を用いたマメ科混播草地における草種識別 ○大出亜矢子・田中勝千・皆川秀夫(北里大学獣医学部)
P13	北欧地域スウェーデン、フィンランドにおける牧草育種の状況報告 ○寺戸貴裕1・飯田 昭2・布野秀隆3・藤井弘毅4(1家改セ十勝・2ホクレン・3日草協・4道総研畜試)
P14	刈取り時期がガレガ地下茎伸長に及ぼす影響 ○小池真太郎1・山田敏彦2(1北大院生物圏・2北大北方生物圏セ)
P15	UAV撮影画像によって得られた3Dモデルを用いたトウモロコシの桿長推定法の検討 ○二門 世・林 拓(道総研農業研究本部酪農試験場天北支場)
P16	南九州地域における数種暖地型マメ科牧草の生産性の検討 ○飛佐 学・木村百音・井戸田幸子(宮崎大農)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月27日の14:00から15:00の間に撤去してください。15:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (大学会館1階 大集会室)

奇数番号コアタイム: 3月26日 13:00~14:00

偶数番号コアタイム: 3月27日 11:00~12:00

2. 造成・管理・栽培

P17	手動播種機により造成したファジービーンの生育と種子生産 ○飛佐 学1・井戸田幸子1・石井康之1・西村慶子2・有馬典男2(1宮崎大農・2宮崎畜試)
P18	草地用ロボットトラクタによる牧草生産技術の開発3. けん引式作業機を装着したロボットトラクタの走行特性 ○関口建二1・岩瀬卓也2・杵田士郎2・横山和寿2・須藤賢司3(1道総研十勝・2ヤンマーアグリ・3農研北海道)
P19	8月の北海道における花資源確保に向けたシロカラシおよびハナナの寒地型牧草地への簡易導入 ○小路 敦(農研北海道)
P20	施肥管理の違いがイタリアンライグラス1番草の収量および粗タンパク質含量に及ぼす影響 ○本田直樹・石垣元気・福山喜一(宮崎大農住吉フィールド)
P21	オーチャードグラス「えさじまん」とペレニアルライグラスの混播栽培 3. 採草放牧兼用における利用3年目の生育特性 ○眞田康治1・田村健一2・秋山征夫1(1農研北海道・2農水省技会)
P22	プラウ耕の休止後4年間の土壌中全炭素含有率とイタリアンライグラス生産の変化 ○黒川勇三1・川村健介2・小櫃剛人1・積山嘉昌1・山口哲平1・木原真司1・脇 良平1(1広大院生物圏・2国際農研)
P23	排水不良圃場における飼料用トウモロコシ (<i>Zea mays</i> L.) の子実収量 ○菅野 勉1・森田聡一郎1・赤松佑紀1・松波寿典2・内野 宙2・重松健太3・米澤千夏4(1農研畜産・2農研東北・3農研革新・4東北大院農)
P24	北海道東部におけるペレニアルライグラスとオーチャードグラスの単播または混播放牧地での草種被度の推移および草量 ○佐々木 亨1・平田 愛1・杉田紳一2(1日草種協北海道支所・2日草種協飼料作物研究所)
P25	寒地型多年生牧草5種における安定同位体セシウムとミネラル濃度の草種間差 ○池田堅太郎・的場和弘・東山由美・小松篤司・戸上和樹(農研東北)
P26	マサ土におけるバヒアグラスの生産量に対する堆肥および化学肥料施用の効果 ○堤 道生1・大谷一郎2(1農研西日本・2農研機構本部)
P27	道東のオホーツク内陸地域で試験栽培したペレニアルライグラスに認められた冬枯れの実態と年次間差の要因 ○藤井弘毅(道総研畜試)
P28	岩手県の転作田におけるフェストロリウムの適応性 ○高村聡美1・佐藤 真1・久保田明人2・池田堅太郎2・藤森雅博2・及川 修1(1岩手畜研・2農研東北)
P29	周年放牧地向け牧草の再評価 ○下田勝久・土井和也・平野 清・井出保行(農研畜産)
P30	播種の遅れたイタリアンライグラス中の硝酸態窒素含有率 ○金子 真・加藤直樹・服部育男(農研九沖)
P31	トウモロコシの不耕起栽培での窒素施肥法—中生品種について— ○出口 新・内野 宙・魚住 順・嶺野英子・河本英憲・神園巴美(農研東北)
P32	神奈川県における品種および播種期が飼料用ダイズの収量に及ぼす影響 ○折原健太郎1・磯部勝孝2(1神奈川畜技セ・2日大生物資源)
P33	牧草品種の混播による雑草の侵入抵抗性, 生産性とその安定性, 病害虫への抵抗性, 飼料価値としての消化性への影響 磯貝泰樹・○吉原 佑(三重大学 生物資源学部)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月27日の14:00から15:00の間に撤去してください。15:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (大学会館1階 大集会室)

奇数番号コアタイム: 3月26日 13:00~14:00

偶数番号コアタイム: 3月27日 11:00~12:00

3. 放牧・家畜管理・行動

P34	ケンタッキーブルーグラス基幹放牧草地における育成牛の固定放牧条件下での家畜生産性 ○八木隆徳・高橋 俊(農研北海道)
P35	放牧未経験の乳用育成牛における放牧開始直後の体重変化量の季節比較 ○新宮裕子・谷川珠子・杉本昌仁(道総研酪農試)
P36	画像からウシ体重推定のための撮影用ジンバルの作成と予備調査 ○田中繁史・板野志郎・吉田智佳子(新潟大農)
P37	ドローン空撮画像を利用した放牧地バイオマス量推定法の検討 ○佐藤正道1・藤本正克2・森 信彰2・笠原宏文3(1山口畜試・2山口産技セ・3ニュージャパンナレッジ)
P38	冬季におけるモンゴル放牧ヒツジの消費・収支エネルギー推定 古戸翔也1・Luo dian2・山中典和3・梅村和弘4・篠田雅人2・○吉原 佑1(1三重大学 生物資源学研究所・2名古屋大学 環境学研究所・3鳥取大学乾燥地研究センター・4北海道農業研究センター)
P39	草地と林地を含む山地放牧地におけるウシのポリフェノール摂取量と血中抗酸化能 ○小倉振一郎1・田村亜香音2・柿原秀俊1・宍戸哲郎1・下田勝久3(1東北大院農・2東北大農・3農研畜産)
P40	未除染草地に導入したトールフェスクの放射性Cs濃度の推移 ○梶村恭子1・渋谷 岳1・山田大吾1・平野 清1・吉田由里江2・松波寿弥2(1農研畜産・2農研東北)
P41	トールフェスクKyushu15草地の親子放牧への利用可能性 ○堤 道生1・大島一修1・大谷一郎2(1農研西日本・2農研機構本部)
P77	ヤギ除草と人力除草による作業コストの比較 ○八代田真人1・松田英典2・大塚浩美2・磯田善之2・渡辺祥二3・土井和也4(1岐阜大応生・2水資源機構・3FRUSIC・4岐阜大院連農)

4. 飼料調製加工・貯蔵・利用

P42	飼料中デンプン源を全てハイモイスターシェルドコーンとした際の泌乳牛の消化率、窒素出納および飼養成績への影響 ○多田慎吾・青木康浩・宮地 慎・矢島 昂・上田靖子(農研北海道)
P43	収穫時に無破砕サイレージ調製した飼料用米の発酵品質 ○井上秀彦・川出哲生・遠野雅徳・小林寿美・神谷裕子・江口研太郎(農研中央)
P44	トウモロコシサイレージ水分調整装置の開発 ○高野 浩1・山本耶子2・小林広人1・二俣 翔1・佐藤克昭1・片山信也1・松井猛紀3(1静岡畜技研・2静岡県お茶振興課・3松井農機製作所)
P45	フレコンラップ法の発酵TMR調製への応用 ○嶮野英子・河本英憲・神園巴美・出口 新・内野 宙(農研東北)
P46	トウモロコシサイレージの給与が黒毛和種育成牛の飼料摂取量、体重、体格及び内臓重量に及ぼす影響 ○細田謙次・林 征幸・中村好徳・林 義朗(農研九沖)
P47	ハイモイスターシェルドコーンの省力化体系についての研究 ○根本英子1・大下友子1・青木康浩1・上田靖子1・多田慎吾1・矢島 昂1・宮地 慎1・三島悠輔2・山本正浩2(1農研北海道・2胆振農改セ東胆振支所)
P48	予乾牧草類における繊維分解酵素を含む添加剤の添加がサイレージの栄養価に及ぼす影響 ○服部育男・加藤直樹・金子 真(農研九沖)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月27日の14:00から15:00の間に撤去してください。15:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (大学会館1階 大集会室)

奇数番号コアタイム: 3月26日 13:00~14:00

偶数番号コアタイム: 3月27日 11:00~12:00

4. 飼料調製加工・貯蔵・利用

P49	トウモロコシ子実の水分、破碎処理の有無がサイレージ発酵品質に及ぼす影響 ○河本英憲・嶮野英子・神園巴美・出口 新・内野 宙(農研東北)
P50	Evaluating the efficiency of harvesting perennial grass in a large TMR center: Investigation of determinants of operational efficiency using econometric analysis with a GPS logger ○佐藤 起・村上智明・中嶋康博(東京大学)
P51	EFFECTIVENESS OF SOLARIZATION PRETREATMENT FOR IMPROVEMENT OF FEEDING VALUE OF WHEAT STRAW BY WHITE ROT FUNGI INOCULATION. ○Njolomba, Joshua ¹ ・花田正明 ¹ ・佐藤 忠 ¹ ・Stanford, Muyila ¹ ・西田武弘 ¹ ・福間直希 ¹ ・山川政明 ² (1帯広畜産大学・2道総研畜産試験場)
P52	酪酸産生菌である <i>Clostridium pabulibutyricum</i> がサイレージの発酵品質に及ぼす影響 ○小林寿美 ¹ ・芳賀 聡 ² ・遠野雅徳 ¹ (1農研中央・2農研畜産)
P53	矮性ネピアグラスの1番草乾草における飼料特性 ○深川 聡 ¹ ・大浦昭宏 ² ・二宮京平 ¹ ・石井康之 ³ (1長崎農技セ・2県北振興局・3宮大農)
P54	木綿ロールベールネットの第一胃内乾物消失率 ○小橋有里 ¹ ・岡本憲一 ² ・岡嶋 弘 ³ (1新潟農総研畜研セ・2岡本レース・3タカキタ)
P55	アフリカ産ネピアグラスの化学成分、微生物コミュニティおよびサイレージ発酵に及ぼす好気放置と密封延滞の影響 ○蔡 義民 ¹ ・山崎正史 ¹ ・Zhumei Du ² ・Damiao Nguluvu ³ ・Benedito Tinga ³ ・Felicidade Macome ³ ・大矢徹治 ¹ (1国際農研セ・2中国農業大学・3モザンビーク農業研究所)
P56	ブルキナファソ中央台地における在来ソルガム茎葉の化学成分 ○山崎正史 ¹ ・伊ヶ崎健大 ¹ ・Simpole S. 2・ManN. 2・南雲不二男 ¹ (1国際農研・2INERA)

5. 生理・形態・病理・昆虫

P57	<i>Festuca-Lolium</i> 属草本から見いだされたオリゴ糖「ロリオース」の各種イネ科植物種子中での含有量の比較 ○西本 完 ¹ ・清 多佳子 ² ・菅原幸哉 ³ (1農研食品・2農研畜産・3農研中央)
P58	幼苗検定により育成した低硝酸スーダングラス系統における幼苗を用いた低硝酸化機構の推定 ○川地太兵・須永義人(農研畜産)

6. 育種

P59	ペレニアルライグラス種子生産における収穫適期判定法に関する研究 ○加藤知寿子 ¹ ・大野和之 ² ・早坂邦昭 ¹ ・櫻井光一 ¹ (1家改セ長野・2現農水省農林水産技術会議事務局)
P60	チモシー新品種「北見33号」の育成と特性 ○藤井弘毅 ¹ ・田中常喜 ¹ ・飯田憲司 ¹ ・足利和紀 ¹ ・佐藤公一 ¹ ・玉置宏之 ¹ ・岩淵 慶 ² ・安達美江子 ² ・竹田芳彦 ² ・大塚博志 ³ ・竹村 紘 ² ・道場和也 ² ・澤田嘉昭 ³ ・下小路英男 ³ (1道総研北見・2ホクレン・3元ホクレン)
P61	チモシーにおける栄養価の早期選抜法 ○足利和紀 ¹ ・田中常喜 ² ・藤井弘毅 ² (1道総研北見・2道総研畜試)
P62	いもち病抵抗性および高温条件下での初期生長性で選抜したイタリアンライグラス系統の定着性および年内草の収量性 ○荒川 明 ¹ ・桂 真昭 ¹ ・高井智之 ¹ ・上床修弘 ¹ ・松岡 誠 ¹ ・波多野哲也 ¹ ・平八重一 ¹ ・笹谷孝英 ² ・園田亮一 ¹ ・川上 顕 ³ ・宮坂 篤 ¹ (1農研九沖・2農研本部・3農研西日本)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月27日の14:00から15:00の間に撤去してください。15:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (大学会館1階 大集会室)

奇数番号コアタイム： 3月26日 13:00~14:00

偶数番号コアタイム： 3月27日 11:00~12:00

6. 育種

P63	高採種性イタリアンライグラスの育成に資する関連形質の調査 2. 長野における2年間の調査結果 ○松井理栄子・川口 優・櫻井光一・相川 誠(家改セ長野)
P64	共生糸状菌(<i>Epichloë uncinata</i>)が感染したイタリアンライグラスにおいて後代種子への菌の移行に影響する宿主植物の遺伝的要因(2) ○吉田信代1・清 多佳子2・杉田紳一3・佐々木 亨3・菅原幸哉1(1農研中央・2農研畜産・3種子協会)
P65	イタリアンライグラス新品種「クワトロ-TK5」の東北日本海側および北陸地域での生産性(2年目) ○久保田明人1・藤森雅博1・菅 和寛2・小橋有里3・長谷川昌伸3・稲葉 真4・沼田尚登4・井川育昌5・西村苑夏5・由利奈美江6(1農研東北・2山形畜試・3新潟畜研セ・4富山畜研・5石川畜試・6秋田畜試)
P66	ドローンと画像解析法によって得られる植生指標relative Green Red Vegetation Index (rGRVI)の飼料用トウモロコシ罹病程度評価への応用 ○秋山征夫・黄川田智洋・眞田康治・佐藤 尚(農研機構北農研)
P67	アルファルファ耐踏圧性系統の播種2年目の特性 ○廣井清貞・佐藤広子(農研北海道)
P68	早生高WSC含量系統「北海32号」と「東北8号0G」の3年間の特性 ○藤森雅博1・谷津英樹2・久保田明人1・秋山征夫3・横山 寛2・眞田康治3(1農研機構東北農研・2雪印種苗・3農研機構北農研)
P69	九州におけるスーダン型ソルガム新品種「ナツサカエ」の季節生産性 ○高井智之・荒川 明・上床修弘・桂 真昭(農研九州)
P70	北海道でのトウモロコシ根腐病接種検定の適用 ○黄川田智洋・佐藤 尚(農研北海道)
P71	トウモロコシの折損負荷抵抗性と節形質の関係 ○佐藤 尚・黄川田智洋(農研北海道)
P72	オールシーズン用飼料用トウモロコシ品種「PI2008」の特性 ○村木正則・室井智陽・伊東栄作(農研九州)

7. 土壌・肥料

P73	Grass oat (<i>Avena sativa</i> L.) Caoyou 1 is more sodic-alkaline tolerance than edible oat Yanke 1 ○Liu Liyun1・Petchphankul Nateetorn2 (1Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University・2Faculty of Agriculture, Kasetsart University, Thailand).
P74	異なる被覆尿素的表面施用における牧草収量と窒素吸収 第2報 ○山田大吾・北川美弥・手島茂樹(農研畜産)
P75	シリカ材添加条件下における家畜排泄物の臭気低減に関する研究 ○石垣元気・小林郁雄(宮崎大農)

8. 高校生 (コアタイムは番号に関わらず、3月27日 11:00~12:00です)

P76	広島県立油木高等学校の粗飼料利用 ○岡本南美・田部三稀・種坂岳士・福島大悟・山本なみ・宮本正展(広島県立油木高等学校)
-----	--

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月27日の14:00から15:00の間に撤去してください。15:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。